



木戸 俊治

一、大阪府知事、市長選結果と今後の町政運営は 二、少子高齢化等、急激な人口減少に伴う対策は

問 知事、市長ダブル選の結果と今後の町政運営は

答 選挙結果は「大阪維新の会」の圧勝となり、大阪都構想実現に向けて動き出すと思われる。本町の学校再編整備や行革への影響等町長はどのように考えるか。

問 今回の結果は、経済活動の低迷、閉塞感の充満、都構想への期待等が考えられるが、これまで同様粛々と個々の問題に取組みたい。

問 新知事は大阪市長と共に大阪で大都市制度の実現を表明し、大阪消防庁の創設等、広域行政の推進を図ることが予想されるが、町長の考えは。
答 今回の都構想は、大阪府民の詳細な理解の上での結果かどうか非常に疑問を感じる。今後水道統合、消防にしても、双方の十分な協議が必要と考える。

問 大阪府と能勢町の関係は、今後も変わらないと理解してよいか。

答 変われば、それは基礎自治体に対する偏見であると思う。

問 少子高齢化等、急激な人口減少に伴う対策は

問 本町においては、急激な人口減少に直面し、集落機能の低下、町の活力衰退が懸念される。生産人口の増加、若者の住みやすいまちづくりを優先課題として、空家対策、子育て支援等プロジェクトチームを早急に立上げ検討する必要があると思うが考えを伺う。

答 我々が毎日考えていることであり、困難な課題であるが、引き続き能勢に求められる施策を模索したい。

プロジェクトチームの設置については、一つの提言として検討したい。



問 これまでに実施したアンケート調査の分析等総合的な角度から検証し、今能勢町で何をすべきかを考え、取組むことが必要と思うが。

答 能勢の若者が住み続けるためには、やはり農業の振興だと思う。今までのやり方を全部変える位の大きな変革が必要であり、貸し借り等々により農業を集約化し、農地を有効に使えば、近郊農業を最大限に生かせる。

農業公社の良し悪しはともかく、受け皿的なものを本町が率先して行うことも必要であると考え

一般質問



谷 義樹

「第2次能勢町環境基本計画」について

問 10年前に制定された「能勢町環境基本計画」が最終年度を迎え、現在第2次計画の検討に入っています。パブリックコメントの募集等も行われましたが、現在の状況について確認しました。

答 第1次計画に寄せられたパブリックコメントについて

問 文化財の資料室をつくらんと考えているが、現状は。

答 未整備の文化財は、前の東保育所で保管し、一部は、住民サービスセンターに展示している。

問 計画の推進段階で具文化するとした、「能勢のコスモスを生かした環境づくり」は。

答 当時は「コスモス園」という形で開放したが、現在は閉鎖している。

問 同じく推進段階で、環境学習センターを能勢高に設けるとなっているが。

答 検討したが、能勢高校を利用するところまでには至っていない。

問 ミツバチ飼育観察で、能勢の環境調査をするとなつているが。

答 自然の動植物を保護・保全していくことが重要というところで盛り込んだが、実施出来ていない。

問 検討中の第2次計画に

答 ごみ処理経費の節減からも、能勢の自然を活用した生ゴミの堆肥化が重要と思うが。

答 委員からもそういった意見があり、それを踏まえてまとめることができると考えている。

問 黒川へ抜ける大槌峠を登ったところで、大埋め立て工事が行われている。問題ないか。

答 大阪府、兵庫県、川西市、また我々で立ち会い等を行い、指導させていただいている。

問 課題実現には、重点指向と指標を持つこと、また協働の取組を進めることが大事と思うが。

答 課題を仕分けし、喫緊の課題から取り組む。指標は、数字であらわせないものもあるが、毎年発行する「のせのかんきょう」という冊子で、報告していきたい。

要望

ごみ減量目標も、何%とかでなく、「生ごみをゼロにします」等、わかりやすい指標を掲げるよう、努力頂きたい。